

学部、学科の開設授業科目における専兼比率

学部・学科			必修科目	全開設授業科目	
総合経営学部	学部共通	教養教育	専任担当科目数(a)	5.27	34.85
			兼任担当科目数(b)	1.73	29.15
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	75.29	54.45
	総合経営学科	専門教育	専任担当科目数(a)	14.20	95.70
			兼任担当科目数(b)	0.80	17.30
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	94.67	84.69
	観光ホスピタリティ 学科	専門教育	専任担当科目数(a)	14.20	100.70
			兼任担当科目数(b)	0.80	33.30
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	94.67	75.15
人間健康学部	学部共通	教養教育	専任担当科目数(a)	5.88	45.67
			兼任担当科目数(b)	4.12	32.33
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	58.80	58.55
	健康栄養学科	専門教育	専任担当科目数(a)	44.00	95.50
			兼任担当科目数(b)	2.00	11.50
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	95.65	89.25
	スポーツ健康学科	専門教育	専任担当科目数(a)	17.50	81.00
			兼任担当科目数(b)	0.50	10.00
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	97.22	89.01
教育学部	学校教育学科	教養教育	専任担当科目数(a)	7.17	36.34
			兼任担当科目数(b)	3.83	28.66
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	65.18	55.91
		専門教育	専任担当科目数(a)	30.33	87.58
			兼任担当科目数(b)	3.67	23.42
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	89.21	78.90

全学共通	資格科目	専任担当科目数(a)	0.00	44.00
		兼任担当科目数(b)	0.00	8.00
		専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	—	84.62

- ① 学部のみを記載すること。
- ② 実働している科目数のみを記載すること。卒業要件の可否は問わない。募集停止している学部、学科も、学生が在籍している場合は記載すること。
- ③ 「専任担当科目数」欄は、他学部・大学院研究科・研究所等の専任教員による兼任科目も含めること。
- ④ 「専門教育」欄及び「教養教育」欄は、大学の設定する区分に応じて名称を記載すること。
- ⑤ セメスター制などを採用しており、各学期ごとの状況に差がある場合は、学期ごとに作表すること。
- ⑥ 複数の学部、学科等にまたがる場合は、共通の欄を新たに設けて記載すること。
- ⑦ 同一科目を週複数回実施している場合、同一教員による実施で専任教員が担当する場合は、専任担当科目数が1、兼任教員が担当する場合は、兼任担当科目数が1となる。
複数教員による実施で専任教員が担当する場合は、専任担当科目数が1、専任教員と兼任教員がそれぞれ担当する場合は、専任担当科目数が0.5、兼任担当科目数が0.5となる。（例：一科目で4クラスに分かれ、兼任が2クラス、専任が2クラス担当する場合、専任0.5、兼任0.5）
- ⑧ 実験、実習等一つの科目を兼任教員を含む複数の教員が担当する場合は、人数比による数値を記載すること。（例：専任4人、兼任1人で担当の場合、専任0.8、兼任0.2）
- ⑨ 小数点以下の端数について、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記載すること。
- ⑩ 大学院大学の場合は、学部を研究科、学科を専攻に読替え、実情に応じて記載すること。

学部、学科の開設授業科目における専兼比率

研究科・専攻			必修科目	全開設授業科目	
健康科学	健康科学	教養教育	専任担当科目数(a)		
			兼任担当科目数(b)		
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)		
		専門教育	専任担当科目数(a)	2.00	39.00
			兼任担当科目数(b)	0.00	7.00
			専兼比率 ($a/(a+b)*100$)	100.00	84.78

- ① 学部のみを記載すること。
- ② 実働している科目数のみを記載すること。卒業要件の可否は問わない。募集停止している学部、学科も、学生が在籍している場合は記載すること。
- ③ 「専任担当科目数」欄は、他学部・大学院研究科・研究所等の専任教員による兼任科目も含めること。
- ④ 「専門教育」欄及び「教養教育」欄は、大学の設定する区分に応じて名称を記載すること。
- ⑤ セメスター制などを採用しており、各学期ごとの状況に差がある場合は、学期ごとに作表すること。
- ⑥ 複数の学部、学科等にまたがる場合は、共通の欄を新たに設けて記載すること。
- ⑦ 同一科目を週複数回実施している場合、同一教員による実施で専任教員が担当する場合は、専任担当科目数が1、兼任教員が担当する場合は、兼任担当科目数が1となる。
複数教員による実施で専任教員が担当する場合は、専任担当科目数が1、専任教員と兼任教員がそれぞれ担当する場合は、専任担当科目数が0.5、兼任担当科目数が0.5となる。（例：一科目で4クラスに分かれ、兼任が2クラス、専任が2クラス担当する場合、専任0.5、兼任0.5）
- ⑧ 実験、実習等一つの科目を兼任教員を含む複数の教員が担当する場合は、人数比による数値を記載すること。（例：専任4人、兼任1人で担当の場合、専任0.8、兼任0.2）
- ⑨ 小数点以下の端数について、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記載すること。
- ⑩ 大学院大学の場合は、学部を研究科、学科を専攻に読替え、実情に応じて記載すること。